



平成 29 年 5 月 8 日

各 位

会社名 株式会社テ゜・ウェスタン・セラヒ゜テクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号: 4 5 7 6)
問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也
TEL 0 5 2 - 2 1 8 - 8 7 8 5

「H-1129」の新適応（滲出型加齢黄斑変性症・増殖型糖尿病網膜症）に関する学会発表のお知らせ

当社が創製し、緑内障治療剤として開発中の「H-1129」につきまして、滲出型加齢黄斑変性症等における作用効果について、平成 29 年 5 月 7 日～11 日に米国で開催されております The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2017（以下、「ARVO2017」）のポスターセッションにおいて発表いたしましたので、お知らせいたします。

主な発表内容は次のとおりです。②については、国立大学法人三重大学と共同で発表しております。

①H-1129 の血管新生抑制効果

(H-1129 suppresses neovascularization through inhibition of secretion of VEGF and proliferation of vascular endothelial cells)

②H-1129 の点眼投与による滲出型加齢黄斑変性症^(注1)及び増殖型糖尿病網膜症^(注2)に対する治療効果

(Therapeutic potential of topical administration of H-1129, an isoquinoline sulfonamide derivative, in wet-AMD and proliferative diabetic retinopathy)

この度発表された研究成果から、H-1129 は点眼投与による滲出型加齢黄斑変性症及び増殖型糖尿病網膜症治療薬としても有効である可能性を示していることから、今後はこれらの疾患での開発の検討を進めてまいります。

なお、本件による平成 29 年 12 月期の業績予想への変更はありません。

H-1129 (WP-1303) について

プロテインキナーゼ阻害剤^(注3)を中心とする当社化合物ライブラリー^(注4)のシード化合物を基にして最適化された、緑内障・高眼圧症を適応症とする開発品です。

日本における権利は、平成 25 年 3 月にわかもと製薬にライセンスアウト（開発コード：W P-1303）し、平成 29 年 3 月に国内第 I 相臨床試験が良好な結果で終了いたしました。現在、国内第 II 相臨床試験に向けた準備が進められております。

海外の権利につきましては、国内の医薬品事業会社がオプション権を有しており、現在評価が進められております。詳細は、平成 29 年 2 月 2 日付「緑内障治療剤「H-1129」の海外におけるオプションライセンス契約締結のお知らせ」をご参照ください。

以上

用語解説

（注 1）滲出型加齢黄斑変性症（wetAMD）

加齢黄斑変性症とは、加齢に伴い眼の網膜にある黄斑部に障害が起こり、視力の低下や失明を引き起こす病気で、滲出型（wet）と萎縮型（dry）の 2 種類があります。滲出型は脈絡膜から異常な新生血管が生じ、その血管により出血や浮腫などが出現することで、物がゆがんで見える等の視力障害を引き起こします。

（注 2）増殖型糖尿病網膜症

糖尿病網膜症は、糖尿病が原因で網膜が傷害され、視力が低下し、失明を引き起こす病気で、糖尿病神経症・糖尿病腎症と共に糖尿病の三大合併症の 1 つといわれております。更に、進行の程度によって三段階に分類されており、増殖型糖尿病網膜症は、最も重度の段階となっております。増殖型糖尿病網膜症は、網膜に通常の血管よりも脆い新生血管を生じさせ、硝子体出血等により視力障害を引き起こします。

（注 3）阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。化学物質が特定の酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用されることがあります。

（注 4）化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネとなる化合物群です。これらの化合物の一つ一つが特徴的な性質を有しており、基礎研究や新薬候補化合物発見に利用されます。